

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「楽しいロータリーで  
つながろう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「地域、次世代と共に、  
明るく!楽しく!!朗らか!!!に  
奉仕を実践しよう」



2019～2020年度

国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー  
2560地区ガバナー 大谷 光夫  
高田ロータリー会長 高坂 光一  
幹事 高橋 正彦

事務局:新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場: デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
加藤 公一 宮川 大樹 藤林 陽三 山田 守  
木村 隆

## 第23回例会 ■ 1月10日(金)

No.23

### 会長挨拶 ● 高坂 光一

あけましておめでとうございます。



令和二年、子年、五輪イヤーの始まりです。年末年始は足元も良く動きやすかったのですが、未だに雪を触ることが大好きな私にとって周囲が白くならずなんとも寂しい感じもしました。皆さんはいかがお過ごしでしたでしょうか？

さて、昨年「ONE TEAM」を掲げた日本チームの活躍で盛り上がったラグビー W カップ期間中、外国から来られた大勢の方が試合観戦の合間に全国各地を巡り、世界に日本が発信されたと思います。五輪イヤーの今年は世界 206 の国・地域の参加が予定されており、更に多くの方が日本に来られます。ここ上越市にもドイツの体操チームが事前合宿を行うことから多くの方がお見えになると思います。政治も宗教も関係ないスポーツの祭典オリンピック、国・性別を超え頑張る選手を等しく応援し、来られた方々を皆で“おもてなし”して、それぞれの胸に日本を刻んで帰国してもらえれば最高!と考えます。

きっと、世界中のロータリアンもお越しになります。大会期間中はロータリーマークを常に身に着け、世界から来られたロータリアンと交流を持

てたら素敵ですね。

本日は、上越市長 村山秀幸様を迎えての新年例会です。市長からの明るい地域のお話を聞き、その後皆さんと新春を大いに祝いたいと思います。

結びに、橋本さん、稲田さん、藤林さん、高橋俊宣さん、横山さん、牧野さん、大島さん、齋藤俊幸さん、神田さん、吉田進一さん、高坂の十一人に加え、なんと！本日お越しいただいた村山市長も子年です。僭越ですが以上十二匹のネズミを代表して会員皆様のご健勝ご多幸、素晴らしい一年を過ごされることをお祈り申し上げ挨拶とします。

### 出席報告

出席率 100%

### ビジター

上越市長 村山秀幸様  
高田 RAC 会長 藤巻将人君、幹事 坂本広泰君

### 委員会報告

出席・ニコニコ BOX 委員会  
会長・幹事——新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

大島 誠君——2020-2021年度 高田 RC の会長としてお世話になります。幹事の伴さん共々よろしくお願いいたします。年賀欠礼の為、新年会を欠席させていただきます。

遠藤 巖君——弊社は、昨年 12 月 20 日、村山上越市長様より上越市平成 30 年度発注工事の優良工事施工業者、並びに優秀技術者の表彰状を頂戴致しました。

齋藤俊幸君——あけましておめでとうございます

す。子年男として今年も頑張ります。本年もよろしくお願い致します。

## 幹 事 報 告

配布物：週報No.21・22

回覧物：九州北部豪雨災害支援の御礼と報告、「復興フォーラム」のご案内(テーブル配布)、東京五輪聖火ランナー情報提供について(ご依頼)

## 卓 話 上越市の現状と未来展望



あけましておめでとうございます。

まずもって社会の大きな変化の中で会員同士の心と心を重ね合わせるというロータリー精神のもと明るい次世代を造っておられる皆様に対して敬意を申し上げます。

昨年を振り返ると非常に災害の多い年でありました。8月の猛暑・酷暑で稲作の一等米比率が10%台という厳しい状況に陥るなか、農家所得が下落し、更に10月には台風19号で大きな被害が追い討ちをかけました。

時代が平成から令和に代わるなか社会自体も大きな変化を迎えています。特に感じるのは世代間や地域などそれぞれの意識の格差であります。この格差を克服する為にお互いが心と心を重ね合わせていかないと次の街づくりをどのようにするか修練されません。自分の事と他の事を重ね合わせながら、寛容に物事を捉えないと社会自体がバラバラになります。

合併から15年、平成17年の合併時には20万8千人いた人口が現在19万人余りです。その人口が5年後の2025年には更に1万人以上減り18万人となる見込みで、更に3人に1人が65歳以上という超高齢化社会となり、時代の変化によって社会の景色や自分自身の意識も変えていくことが求められています。合併前の13町村である中山間地と市街地である旧上越市との意識の格差は依然大きいものがあります。人口が急速に減

上越市長 村山 秀幸 様

少する中、公共施設の再配置で学校や温浴施設を減らすなどの見直しをせざるを得ないという不利益を配分する時代になった事を市民の皆様にも理解して頂く必要があります。

新潟県は財政難の中で緊縮政策を進めています。県民に痛みを伴いながらも、知事は財を有効に使う事が求められています。当然、新潟県の財政が縮めば市町村の行財政も縮んでいきます。そんな厳しい中でも自分の関わる地域や人の良い所を言い合って、知恵を出し合い前向きな姿勢で困難を乗り切る必要があります。元気に頑張っている企業には行政は支援を注いで参ります。特に上越市は建設業や製造業の従事者が多いなか、経済産業省の取り組みで製造業におけるハンズオン支援制度に全国82自治体の1つに選ばれました。そして雇用やインフラなど経済波及効果が大きい建設業にも引き続き1,000億の予算の1割程度を投入して地域の安心安全に取り組んでいただきたいと思います。

成熟した社会の中で、時代は大きな変化を迎えています。私たちの町は紛れもなく私たち自身が創ってきたものであり、次の時代に繋いでいく貴重な財産であります。時代の変化という荒波の中でもニコニコしながら乗り越えて行く気持ちのありようが大事だと思います。これからもそれぞれの立場でご活躍頂く事を祈念して新年のお話と致します。